

## 平成22年度 第2回熊本市上下水道事業運営審議会議事録（要旨）

I 日 時 平成22年10月25日（月）午前10時から（約1時間30分）

II 場 所 上下水道局本館2階会議室（委員会室）

III 出席委員 6名（50音順）

尾上達也、川越保徳、工藤光明、嶋田純（会長・議長）、杉内昭夫、藤本静美

IV 事務局（市側）出席者

花田上下水道事業管理者、木下総務部長、高橋水道部長、田尻下水道部長、井口経営企画課長、以下 上下水道局職員

V 傍聴者 3名

VI 次 第

1 開 会

2 報 告

平成21年度「水道事業会計」、「下水道事業会計」、「工業用水道事業会計」の決算状況について

3 審 議

「熊本市水道事業経営基本計画」、「熊本市下水道事業中・長期経営計画」の検証について

4 その他

5 閉 会

VII 議事録

2 報告

（事務局） <資料に基づいて説明>

○資料1 決算の状況（水道事業、下水道事業、工業用水道事業）

○平成21年度決算状況について

（議 長） ただいまの説明および資料に対して、質問等ありましたら、お願いします。

（委 員） 企業債の利率はどの程度か。高利の企業債はどの程度残っているのか。

（事務局） 現在の利率は上下ともに2.5%程度である。5%以上の高利な企業債は、水道事業会計では残っていない。下水道事業会計には、約37億円程度高利な企業債が残っているが、本年度中に繰上償還を行い低利なものに切り替えられると見込んでいる。

（委 員） 補助金制度の変更の影響はどうか。

（事務局） 平成22年度の補助額は僅かに減少した。交付金制度がどのような制度になるのかは、流動的な部分があり動向を注視している。下水道は、河川と同じ枠の交付金となり、県全体で国へ要望することとしている。市としては、中長期経営計画に基づいて5年間の計画を策定し、要望をしているところである。また、政令指定都市になっても、制度上の大きな変更点

はないと考えている。

(委員) 費用の中にある「その他」とはどのようなものがあるのか。

(事務局) 受託工事費や漏水調査費などである。

(委員) 合併は、政治的なものであるが、合併に伴う企業債残高の増加や整備促進のための投資増について、一般会計からの補填はないのか。

(事務局) 水道事業会計については、一般会計からの繰入はほとんど無い。下水道事業会計については、基準内繰入は有る。今後、財政当局と協議を進めて行きたいと考えている。

負債だけでなく、両町から受入れた資産もある。今後、整備を進め、普及率を向上させ、収支の均衡を図っていききたい。

また、借入額を返済する額より低く抑え、企業債残高を減らすよう努めている。

工業用水道事業については、県や経済部局とも連携し企業立地を進め赤字解消を図るとともに、当分の間は、赤字分については一般会計からの繰入を受けることになっている。

## ○「熊本市水道事業経営基本計画」、「下水道事業中長期経営計画」の検証結果について

(事務局) <資料に基づいて説明>

○資料2 「水道事業経営基本計画」、「下水道事業中長期経営計画」の検証について

(議長) ただいまの説明および資料に対して、質問等ありましたら、お願いします。

(委員) どのようなやり方で現計画の評価を行ったのか。

(事務局) 年2回、課長級以上で構成する推進評価委員会を開催し、評価を行ってきたものの積み上げである。

(委員) 外部の第三者の評価は入っているのか。

(事務局) 内部(自己)の評価である。

(委員) D(見直しが必要)とは、どのような意味か。

(事務局) 計画策定当初は想定していなかった事象が発生したために、計画を見直す必要が生じているケースである。

(委員) 総括的な検証結果(A4版の資料)と、個別の取組み項目の評価(A3版の資料)との間に整合性がとれていない部分がある。総括的な検証結果では、黒丸(●:課題・問題)と評価されている点、個別の取組み項目の評価ではA(順調)とされている箇所があり、整合性が取れていないように思われる。

(委員) 評価が内部だけで行われていることもあり、大雑把すぎると感じる。計画に対しての進捗状況、環境変化への対応状況、財政的な評価など細かく丁寧な評価が必要なのではないか。

(事務局) それぞれの取組み項目の下にさらに細かい細項目があり、推進評価の委員会では、細部にわたって検証しているものであるが、細項目は膨大になるため、大枠的・抜粋的な検証結果ということで、今回このような資料を提示した。現状の評価(当初策定していた計画の進捗)という点では A(順調)であるが、今後、新計画を策定するうえでは、より積極的に取り組まなければならないと考える点や、整理して再構築せねばならないと考える点などを黒丸(●:課題・問題)で表現している。

(委員) それぞれの取組み項目の細かな評価が分かる資料をお願いしたい。また、個別の取組み項目の評価から、総括的な検証結果に至った経緯・過程が分かるような資料をお願いしたい。

(事務局) 次回審議会までに、細かな評価が分かる資料や、総括的な検証結果の補足資料を委員各位にお送りし、ご検討いただきたい。

(議長) そのような形で対応するようお願いする。

(事務局) 次回審議会までに資料をお送りし、ご意見等がございましたら事務局で取りまとめますのでお知らせください。ご意見の取りまとめ結果を皆さまにお知らせする形とするのか、次回審議会の場で更にご議論をいただくかについては、議長とご相談させていただきます。  
次回審議会では、そうしたご意見等も踏まえ、新計画の骨格部分をお示しし、可能であれば諮問という所までお願いしたいと考えております。